

事業所名 児童発達支援センターふれっじ

公表日 日 2025年 3月 28

	No.	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	50%	50%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体を動かす活動では、人数が多くなりすぎないように2グループに分けるなどしています。 ○ 活動内容に応じて職員の目の届く人数、ケガのない人数でグループ分けをしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動内容によっては、十分なスペースの確保が難しい事があります。 ○ クールダウンスペース等個別のお部屋がもっとあるとより良いと感じます。
	2	職員の配置数は適切である	57%	43%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の人数に対し職員が欠席などで少ない際は、職員の休憩を調整し活動内容に配慮しています。 ○ 児童の休みの人数で、当日職員の配置を臨機応変に変更しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手先課題等、1人1人丁寧に見たい時や個々のペースを大切にしながら向き合いたい時、片付けに時間がかかる活動(片栗粉、スライム等)、散歩では、人員のさらなる充実が必要と感じる。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	86%	14%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階段を使用する際は職員が付くようにして対応しています。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	79%	21%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が帰宅してから毎日清掃と消毒を実施しています。 ○ 掃除の際は細かいゴミを残さぬよう特に注意しています。 	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	64%	36%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的にクラス会議などで問題点、困っていることや改善策を話し合っています。 ○ 個別課題に基づいて目標設定、振り返り、改善に努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラス会議で話し合う機会はあるものの、全体で振り返る機会を増やしたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	93%	7%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者から挙がった意向について全体で共有し、改善できるよう会議などの場で対応策を確認しています。 	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	72%	28%		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	64%	36%		<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部評価について、全体で振り返りを行っていききたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員配置を考え、職員全員が外部研修に参加できるようにしています。 ○ 資格取得研修などは、経験年数や配置などを考慮して割り振りをおこなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員が自主的に受けたい研修に参加できるよう、情報提供していきます。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	79%	21%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画書を作成する際に、クラス職員でアセスメントシートの見直しをするようにしています。 ○ 発達段階に合わせ、成功体験につながる目標設定をおこなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者のニーズを聞きとる機会をもっと作ってほしいと思います。

	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	64%	36%		○ クラス会議で確認する機会などを通じて、標準化されたツール等を活用して行きたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	79%	21%	○ ガイドラインに基づき支援内容を設定しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%		○ 個別支援計画を職員一人一人が意識して支援が実施できるよう、日々の記録(ケース記録)の上段に支援方針や支援内容を記載しています。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	57%	43%	○ クラスの担当が活動プログラムを立案し、各クラスの担当が持ち寄ってプログラム会議を実施し、内容の適正化や活動部屋の調整をおこなっています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	57%	43%	○ 活動を展開できるようにネットを参考にしたりし、工夫しています。	○ いつも同じ内容にならないよう念頭に置いているが、重複してしまうこともあるので、バリエーションを増やしていきたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	71%	29%	○ 送迎で打ち合わせが難しい場合、書面にて共有しています。 ○ 各クラスの細かい動きは、顔をあわせての打ち合わせが難しいこともあるが、クラス日誌で共有しています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			
	#	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	79%	21%		
関係機関や	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	86%	14%		
	#	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	57%	43%		
	#	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	71%	29%		
	#	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	36%	64%	医療的ケアが必要な児童の利用なし。 主治医の指示など、確認しながら支援をしています(先天性疾患、アレルギー)	
	#	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	71%	29%	○ 保育園、幼稚園と年に一度ほど共有する機会はあります。ささいな困り感を日々共有できるよう関係性を深めて行きたい。	

保護者との連携関係機関や保護者との連携	#	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	64%	36%	○ 小学校へ行ってからの様子を知る事が出来ると、事業所で支援した成果を知ることができ、今の支援にも繋がるのではなかと感じています。	
	#	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	43%	57%	○ 何年か前に交流の機会がありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響から途絶えてしまいました。他事業者の方と関わる機会を作りたいと考えています。	
	#	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	93%	7%	○ 保育園側からの交流がもう少し回数があると、交流に行けない利用児も交流する機会が出来ていいと思います。	
	#	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	36%	64%	○ 藤沢市総合支援協議会や子ども発達連絡会議へ参加しています。現場の職員の参加や情報共有は今後の課題です。	
	#	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	29%	71%	2023年度は、市と当事者団体と共催の研修を、保護者と一緒に受講することができたが、2024年度は中止となった。	○ 外部講師などを活用し、保護者向け研修も実施していきたい。
	#	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	93%	7%		
保護者への説明責任等	#	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	86%	14%	○ 支援計画作成時の面談、モニタリング時の面談の場で保護者へ説明をおこなっています。	○ 計画の妥当性について、計画に基づく支援が開始された後の点検が必要だと感じます。
	#	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	86%	14%	○ 送迎時や連絡帳などで保護者から発信があった際、担当やリーダー職より保護者へアプローチをしています。	○ 発信を待つのみならず、こちらからも保護者とのコミュニケーションを増やすなど、工夫したい。
	#	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	79%	21%	○ クラス懇談会や保護者会を開催し、保護者同士が顔を合わせて情報共有する場を用意しています。	○ 保護者同士の連携を支援する事について、さらに工夫していきたい。
	#	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	93%	7%		
	#	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	79%	21%	○ 事業所で配布するお便り、マチコミメールで流しています。	○ 保護者が望む情報が発信できるよう工夫していきたい。
	#	個人情報の取扱いに十分注意している	100%			
	#	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			
	#	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	79%	21%		○ 施設で実施するイベントに、地域の方が来場しやすいよう、広報や地域交流について工夫が必要だと感じます。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	93%	7%		
	#	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	93%	7%	○ 毎月、火災想定、地震想定での訓練を交互におこなうようにし、児童や職員が発災時に行動できるよう習慣化に取り組んでいます。	
	#	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	93%	7%		
	#	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	79%	21%	○ 食物アレルギーの確認は必ずしています。保護者からの食形態等の希望にも対応しています。	
	#	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			
	#	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	86%	14%	○ 事業所内研修を実施し、職員が意識して支援にあたるようにしています。	○ 今後も研修などの機会を設けていきます。
	#	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	64%	36%	○ 現在、身体拘束の事例はないが、該当するようなケースがある場合に、適切に対応できるよう、必要な取り組みについて周知しています。	